

岡本神草の時代展

The Age of Okamoto Shinso

会期 2018年5月30日(水)→7月8日(日)

開館時間 10:00-18:00(金・土曜日は20:00まで) ※ 入場受付は閉館の30分前まで

休館日 6月4日(月)、18日(月)、7月2日(月)

観覧料 一般 1000円(800円) 大学生 700円(560円) 小・中学生、高校生無料

★きもの割引：きものを着てご来館の方は観覧料2割引

※障がい者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 ※()内は前売り、団体20名以上、市内在住65歳以上の方の料金

※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ(5月20日まで)、ローソンチケット(Lコード:34373)、セブンイレブン(セブンチケット)、

千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて5月29日まで販売(5月30日以降は当日券販売)

主催 千葉市美術館、京都国立近代美術館

永久に完成せざる藝術は無限に進歩する。(岡本神草「寸感」大正11年5月20日より)

展覧会概要

岡本神草(本名・敏郎)は明治27(1894)年、神戸市に生まれました。彼は、大正4年に京都市立美術工芸学校絵画科を卒業後、京都市立絵画専門学校に進学します。最初は当時広く流行していた新南画風の作品を描いていましたが、大正5年頃から生涯のモチーフとなった舞妓を竹久夢二風に描くようになります。その世界は浮世絵の影響を受けて、濃厚な官能性を帯びるようになり、大正7年の第1回国画創作協会展(国展)に入選した《口紅》によって一気に開花し、新興美人画家として注目を集めました。大正9年、第3回国展に出品した《拳を打てる三人の舞妓の習作》では官能性の先にある神秘的な存在感を追求し、将来を期待されるようになります。その後菊池契月に師事し、新たな展開を模索するなか、昭和8(1933)年に38歳の若さで急逝しました。

今回は《口紅》、《拳を打てる三人の舞妓の習作》等のこれまでに知られている作品をはじめ、寡作で知られる岡本神草の数少ない完成作を可能な限り集め、素描・下図・資料類約100点の他に甲斐庄楠音など共に競い合った仲間や師の契月などの作品も展示します。

本展覧会は昨秋京都国立近代美術館で開催され、大きな反響を呼びました。東日本で唯一本展を開催する千葉市美術館は、巡回の最終会場となります。

※会期中、展示替えを行います。

みどころ

☆ 夭折の画家、数少ない完成作の全貌をはじめて紹介

38歳で夭折した岡本神草は、活動期間が短かったこと、そして構想や準備を念入りにしたこと、残された完成作が大変少ない作家です。完成させた大作に至ってはわずか数点しか現存しませんが、本展では存在が確認されている代表作すべてを出品します。その官能的な描写によって大正から昭和にかけての京都画壇における美人画のアイコンとなった《口紅》、未完の傑作となってしまった《拳を打てる三人の舞妓》のシリーズのほか、本画として初めて紹介される屏風《五女遊戯》も展示されます。あわせて、素描や下図を約100点を紹介することで、制作の過程や影響関係を知ることができるだけでなく、インパクトの強い神草作品を支えた高い技術力を目の当たりにすることでしよう。

☆ ミステリアスな神草の世界が明らかに

神秘的な女性像を描きミステリアスなイメージの強い岡本神草ですが、残されたデッサンなどを見ると、同時代に大衆に人気のあった竹久夢二や岸田劉生、白樺派が紹介していたゴッガンといった最新の現代美術を取り入れていたことがわかります。

☆ 甲斐庄楠音、菊池契月、福田平八郎…同時代の京都画壇に見る「神草の時代」

岡本神草の師匠である菊池契月、ライバルであり現在も根強い人気を誇る甲斐庄楠音、そして意外にも同級生であった京都画壇の巨匠福田平八郎の画学生時代の作品もあわせて紹介することで、その時代の京都画壇の流行を見て取ることができます。



記者レクチャー

報道関係の皆様を対象に、記者レクチャーを行います。一般公開に先がけて展覧会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

5月29日(火)／15:00より(1時間程度)／10階会議室にて
参加ご希望の方は同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。

また、展覧会の開催に伴いオープニングレセプションを行います。ぜひご参加ください。

5月30日(水)／16:00より／11階講堂にて

展覧会関連イベント

講演会

「岡本神草の夢と現」

講師：上藪四郎(笠岡市立竹喬美術館館長)

6月2日(土) 14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて／聴講無料

先着150名(当日12:00より11階にて整理券配布)

ギャラリートーク

担当学芸員による：

5月30日(水) 14:00より

ボランティアスタッフによる：

会期中の毎週水曜日(5月30日を除く) 14:00より

※水曜日以外の平日の14:00にも開催することがあります。

※混雑時には中止する場合があります。

市民美術講座

「東京画壇と京都画壇」

講師：河合正朝(当館館長)

6月9日(土) 14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて／聴講無料

先着150名(当日12:00より11階にて整理券配布)

「大正の青年たちが目指したもの－国が創作協会、草土社そしてMAVO－」

講師：藁科英也(当館上席学芸員)

6月23日(土) 14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて／聴講無料／先着150名

◆イベントの追加、変更につきましてはホームページをご確認ください

同時開催

所蔵作品展「浮世絵黄金期からの展開」

喜多川歌麿(?-1806)が新潟の豪農のために描いたと伝えられる、重要美術品《納涼美人図》をはじめ、千葉市美術館の誇る浮世絵コレクションから、人気の作品を選んで展示します。

※「岡本神草の時代展」をご観覧の方は無料



喜多川歌麿《納涼美人図》
寛政6-7年(1794-95) 千葉市美術館蔵

次回展予告

2018年7月14日(土)～9月9日(日)

企画展「木版画の神様 平塚運一」

所蔵作品展「旅」



平塚運一《白杵石仏》
1940年 千葉市美術館寄託

「岡本神草の時代展」

広報用画像一覧

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。是非、本展をご紹介しますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。



1. 岡本神草《口紅》大正7年(1918)
京都市立芸術大学芸術資料館蔵



2. 岡本神草《拳を打てる三人の舞妓の習作》大正9年(1920)
京都国立近代美術館蔵



3. 岡本神草《婦女遊戯》昭和7年(1932)
株式会社ロイヤルホテル蔵



4. 甲斐庄楠音《横櫛》大正5年(1916)頃
京都国立近代美術館蔵



5. 菊池契月《少女》大正9年(1920)
京都国立近代美術館蔵

「岡本神草の時代展」
広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■ 写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。
原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉県美術館
広報担当 行
FAX：043-221-2316

貴社名：	媒体名：
ご担当者名：	発行予定日：
TEL：	発行部数：
FAX：	定価：
Email：	掲載予定コーナー名等：
画像到着希望日： 月 日 時まで	画像の掲載サイズ <small>(おおよそで結構です 例：5cm 四方、など)</small> ：

■ 画像データ申込 (ご希望のデータの番号に○をつけてください。)

1. 岡本神草《口紅》大正7年(1918) 京都市立芸術大学芸術資料館蔵
2. 岡本神草《拳を打てる三人の舞妓の習作》大正9年(1920) 京都国立近代美術館蔵
3. 岡本神草《婦女遊戯》昭和7年(1932) 株式会社ロイヤルホテル蔵
4. 甲斐庄楠音《横櫛》大正5年(1916)頃 京都国立近代美術館蔵
5. 菊池契月《少女》大正9年(1920) 京都国立近代美術館蔵

※この他、プレスリリース掲載の画像でご希望がございましたら、ご相談ください。

■ プレゼント用招待券申込

(ご希望の場合はチェックをつけてください)

5 組 10 名様分 希望します。

(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談下さい。)

チケット送付先
ご住所：〒

問い合わせ先

千葉県美術館 〒260-8733 千葉市中央区中央 3-10-8

広報担当：磯野 愛

Tel. 043-221-2311(代表) / 043-221-2313 (直通)

Fax. 043-221-2316

E-mail. isono@ccma-net.jp

HP. <http://www.ccma-net.jp/>